

よぬだ ところどころ



第一号

ヨナダーが下米田・牧野の色々な見どころを紹介するよ

伝若菜御前の所持仏「馬頭観音」を祀った場所

若菜御前といわれる人物は、木曾義仲の妾妻とされ、義仲を追って京へ上る途中、この地で死亡し、その時所持していた護持仏（馬頭観音）が観音島に安置されたものとされる。

現在、伝若菜御前墓とされる宝篋印塔が、山本の若菜洞にある。



段丘上にある小山寺（ショウサンジ）が観音堂と関係があるように思われるが、時代的に見れば小山寺の方が新しく、馬頭観音が小山寺の本尊でないことからわかる。この馬頭観音のご利益には、色々があるとされる。

①交通安全関係の守護

若菜御前伝承 川湊安全

②子授け、子育ての守護

島御前伝承

③養蚕業の守護

蚕と桑栽培の安寧

元々人や物資の移動に対する安全祈願が中心であり、平安末期に信州から京都への道中の安全を願って若菜御前が所持していたとされる護持仏による。

また、室町時代には、蜂屋の島御前が子供を授かるように祈願し、その結果、仁斎という僧侶を生んだことから、この観音様に祈願すれば、子どもが授かるという話が成立したことによる。さらに、江戸期以降は商品作物としての養蚕業の守り神として、近辺の養蚕農家の信仰を獲得した。写真は正期の観音島。小山からは陸続きの様子が分かる。川合ダムの設置でダム湖となり、観音橋がつけられた。

